

車いすペロ 潮風に走れ

初夏の風に誘われて観光客が増え始めた和歌山市の景勝地・和歌の浦に、車いすで毎日、散歩する犬の姿がある。下半身がまひしているため特製の台車に後ろ脚をくくりつけ、前脚だけで歩き、走る。波と戯れるけなげな姿に、近所の人たちや観光客が「頑張れよ」と声援を送っている。

和歌の浦浜

雑種オス 11歳

和歌山市和歌浦東四丁目、会社員浜野猛さん(四二)の愛犬「ペロ」。雑種のオス、十一歳。

子犬の時から大切に飼われてきたが、去年春、突然、よろよろと倒れた。獣医に見せたらヘルニアとの診断。下半身がまひしていた。体長は一メートル近くあり、体

きが変わったんです。私たちが変わったんです。私たちの声や表情から分かるんですよ」と妻の利子さん(四二)。安楽死には高「二」の娘が強く反対した。

「ペロ、行こうか」。利子さんは、車輪がよく回るようにと欠かさず軸に油をさす。朝は近くの中学校まで。午後三時からは二「三」近

重は二五、六「七」。世話が大変だろう」。安楽死を勧める人もいた。「どうする……」。子ども家族四人で話し合っていたら、ペロが悲しそうにみんなを見つめた。「顔付日三回の散歩が何よりの楽は「えらいねえ」「これか

一時は「安楽死」の話も

散歩姿に観光客も拍手

らも、かわいがってあげてね」と声がかかる。夜は八時から近所まで。

雨の日以外は毎日、同じコースを歩く。もう、一年になる。明彦

